
鎌のお姉さん

緒方 零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鎌のお姉さん

【Nコード】

N9635F

【作者名】

緒方 零

【あらすじ】

小さい頃教えてもらった怖い話。それは魂を狩るお姉さん。そんな話も忘れ平凡に過ごしていたが・・・？

ある昔・・・

おばあちゃんから聞かされたお話。

後ろに長い棒を背負った女の人に話しかけられたら、すぐ逃げなさい。

にげるの？ なあんで？

長い棒はね、人の魂を狩る“鎌”なんだよ。

たましいをかる、かま？

大きくなったら分かる日が来るわ。忘れちゃいけないよ、そのの名前は・・・

「とぎぎ・・・、東土木^{トウトギ}!!」

なんか、呼ばれてる？

今は国語の授業でボーっとしてたら眠くなつて・・・、寝た。

寝たああああ！！??

「えっ？」

案の定、起きると国語の先生が仁王立ちしてこっちを見てる。
うわー、何で寝ちやっただろ。

「東土木！！廊下に立ってろ！！！！」

「はい・・・」

私は廊下に出た。

「うわぁ・・・、さむっ」

今は真冬。

暖房が効いた教室とは違い、廊下は肌寒い。

しかも授業中のせいか、廊下は静まりかえっている。

「マジついてない・・・。にしても、あの夢はなんだったんだろ？」

懐かしさを感じる夢。

鎌とか、女の人とか言ってたような？

「名前？」

何の名前？

まあ、関係ないし。

キンコーンカーンコーン

「やっと終わった」

ドアから先生が出て行くのを確認し、私は教室内に戻る。
職員室に呼び出しなんていやだ。なんたって私は常連なのだ。

「真奈美^{マナミ}、またあ？」

席に着くと、前の席の斉藤^{サイトウ}鈴華^{レイカ}が話しかけてきた。
ちよつと、いやかなりミハーでブリッコだが優しい子。
いまではお互い相談までする仲なのだ。

「まただよ。だって眠くなるじゃん」

「まあね。真奈美の気持ちも分かるけどさあ」

「鈴華、サボろうか？」

「ええ？私はあ、いいよ。次は社会だしね」

「ああ、そっか。じゃあ、私は帰るわ」

「バイバイ、真奈美」

鐘が鳴る前に私は鞆を持って玄関まで走った。
早くしないと担任に捕まってしまう。

なんとか先生に見つからず走り抜けた。そのまま靴を履いて門まで。

「やっぱり閉まってるかぁ・・・」

門に行くとは閉まってる。
けど、私には関係ない。
鞆を門の向こう側に投げて私は門を飛び越えた。

「らくしゅう」

そのまま家に向かって歩き出す。

「あ、れ？ここの道って、こんなに人通りがなかったっけ？」

商店街並の大きな道。

それなのに、人が歩いてない。もちろん動物もない。
なにか、おかしい。と思ったときにはもう遅かった。

「長い棒に女？」

夢に出てた幽霊？

確か、魂を狩る鎌だったような・・・。

「あなたのたましい、おいしそうね」

「おいしくないです！」

「わたしにたましいをくれない？」

「えっ！？」

その時にはもう、女は鎌を振り上げていた。

反射的に私はそれを避ける。

こいつに会ったときはどうするんだっけ？
どうやって逃げるんだっけ？

考えていたら、鎌が左腕に刺さった。

「（やばっ）」

思いつきり手をひく。

血はでてない。傷もついてない。

ただ、・・・感覚がなくなっていた・・・。

「あなたはもうひだりうでをなくした。あとはしんぞうのみ」

「やめて！鈴華！！」

言った瞬間、鎌は私の心臓に刺さった。

なぜか、鈴華の名前が出た。気配が鈴華に似ていたから・・・。

そのまま私は倒れた。

「真奈美のたましいはやっぱりおいしいわね」

その女は姿を消した。

真奈美は救急車で運ばれたが、もう既に息はしていなかった。

学校の屋上。

そこには鈴華の姿が。

「真奈美い、魂ありがとねえ。おいしかったよお」

鎌のお姉さん。

名前は『魂狩りの鈴華』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9635f/>

鎌のお姉さん

2010年10月11日00時39分発行